

令和5年度（2023年度）第2回日高管内いじめ問題等対策連絡協議会の概要

説明「日高管内におけるいじめの問題等、生徒指導に関わる取組について」

- いじめ・不登校等（令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査から）
 - ・各学校の法に基づいたいじめの積極的認知により、昨年度からいじめの認知件数が向上している。
 - ・不登校児童生徒は昨年と比較し、明らかな増加が見られる。
- 令和5年度日高管内どさんこ☆子ども地区会議の実施状況
- 令和5年度『絆づくりメッセージコンクール』への参加状況
- 生徒指導上の諸課題に関するその他の報告

実践発表

実践発表者 新ひだか町学校適応指導教室「ステップ」指導員
中山英明氏

【不登校の児童生徒を支援するための体制づくりについて】

- 学校への復帰及び将来的な社会的自立に向けた取組
 - ・教科等の学習指導による不登校児童生徒への支援
 - ・軽スポーツや体験活動による体力の向上及び生活リズムの安定化
- 学校との連携
 - ・「ステップ」における児童生徒の活動の様子の共有
 - ・不登校の予兆が見られる児童生徒への支援の方策に係る協議



意見交換

令和5年度 of 取組状況及び令和6年度に向けた課題の確認

柱1 学校・家庭・関係機関と連携した、不登校支援に係る組織的な取組について

- スクールカウンセラー等の専門家と連携した支援を行うことができた。今後は、一層の連携強化に向けた体制づくりが必要。（校長会）
- 児童生徒によりよい人間関係をつくる力等を育むとともに、自ら問題解決できる力を育成していくことが大切。（校長会）
- 不登校等につながる子どもの気になる行動について、行動そのものを的確に把握し、指導を行うとともに、背景となる環境等を把握し、行動の原因について考えることが大切。（家庭教育サポート企業）

柱2 学校・家庭・関係機関と連携した、生徒指導上の諸課題への対応について

- 管内のPTAによる保護者向け講演会では、子どものメンタルヘルスに係る内容を取り上げる町が増えており、講演後の保護者アンケートから、都市部と比較し、不登校等に関するメンタルヘルスケアを受ける機関の少なさを感じているといった課題が見られる。（PTA連合会）
- 支援が必要とされる子どもの要因が多様化、複雑化している状況があり、このことに対応するためには学校・家庭・関係機関の連携が必要。特に、緊急的な対応が必要な際、学校の受入れ体制や関係機関の協力体制など、速やかな対応をするための具体策について検討が必要。（振興局）
- いじめ、児童虐待等への対応について、いかに早期に対応するかが重要であることから、事案の発生時は、個人や組織で抱え込むことなく、早く警察に相談することが大切。（警察）
- コロナ禍以降、子どもが自信を失ったり、無気力になったりする様子が見られたことから、自然体験を中心としたサマーキャンプを行い、子どもの自己肯定感を高めたり、仲間との人間関係づくりに係るプログラムを取り入れたりしている。（子ども育成団体）
- 関係機関との連携に当たり、数値等で明らかにすることが難しい課題を、いかに可視化するかが大切。そのために、子どもの状況を判断するための指標づくりや、教員及び関係機関の職員等の子どもの日常的な状況把握を行い、情報を共有し、対応策について協議するなど、課題対応のための感度を上げることが必要。（教育委員会）

意見交換

まとめ

- 生徒指導上の諸課題に対応するため、学校だけで抱え込むことなく、積極的に関係機関と連携し、児童生徒の状況に応じた適切な指導や支援を行う必要がある。
- 課題が顕在化したり、状況が深刻化し、対応が困難となったりする前に、学校・家庭・関係機関が連携し、児童生徒の実態把握や支援の方向性について検討し、早期に対応する必要がある。
- 不登校児童生徒への支援として、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することができるよう、教育支援センターやICTの活用などにより、「不登校により学びや支援にアクセスできない子どもたちをゼロ」にする必要がある。